

平成22年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

心身ともに健康で、自ら考え主体的に行動し、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かでたくましく生きる児童を育成する。 ～ 心ゆたかで かしこく たくましく ～

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

目指す子ども像	育てたい能力・態度	今年度のめあて
思いやりがあり協力し合える子 (心ゆたかで)	豊かな心、共生の心	・元気のよいあいさつをする ・誰とでも仲良くする
進んで学び自ら考える子 (かしこく)	学ぶ意欲、問題発見・解決能力	・意欲をもって進んで学習する ・本をたくさん読む
心と体をきたえる子 (たくましく)	気力、健康・体力	・健康な心と体をつくる ・好き嫌いなく食事をする

2 学校経営の理念

－ 秩序があり安心して「学び」・「教え」・「支え合える」活力ある学校経営の推進 －

3 学校経営の方針

◇目指す学校の姿（本校の使命）

「活気あふれる地域の学校」

◇ 学校像と教職員像

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| (1) 夢や意欲をもたせる学校 | (2) 心豊かな児童が育つ学校 |
| (3) 一人一人の自立を支える学校 | (4) 誰からも信頼され魅力のある学校 |
| (5) 専門性が高く情熱のある教職員 | (6) 人間性・社会性豊かで信頼される教職員 |
| (7) 学校組織の一員として協力し合える教職員 | |

◇「平北プロジェクト」（本校教育の重点）の策定と全職員による実践推進

4 今年度の重点目標

(1) 学校運営

・学校マネジメントシステムを生かした活気あふれる地域の学校づくりの推進

(2) 児童生徒指導

・思いやりの心を持ち、主体的に正しく行動できる児童の育成

(3) 健康・体力

・自己の健康・体力についての理解を深め、進んでその向上に努める児童の育成

(4) 学習指導

・「分かる授業」による、意欲をもって進んで学習する児童の育成

5 児童生徒指導、健康・体力、学習指導に関する取組

※ 別添1～3参照

6 特色ある学校づくりに関する取組

(1) 育てたい資質・能力

「地域の人や自然を愛する心もち、社会性を身に付けた子どもの育成」

(具体目標)

- ① 地域の自然や人材、施設を教育活動に積極的に生かし、生命尊重の精神や豊かな心、集団や社会の一員として大切な態度などを育成する。
- ② 地域の人との多様な交流を通して、児童一人一人が自分を見つめ、自己の生き方を考えさせる。
- ③ 地域での体験活動等を通じた学習により、主体的に学ぶ力と学ぶことの楽しさや成就感を体得させる。

【今年度のめあて】・地域の人や自然を愛する心をもつ

・正しく行動する

(2) 具体的取組(提案型予算「頑張る学校プロジェクト」関連には、文頭に◇)

ア「生命を尊重する心」や「豊かな心」を育てるための教育活動の充実

- ◇・教科…地域人材活用授業や地域素材の教材化及び自然体験活動
- ・道徳…心に響く教材を工夫した道徳授業の実践
- ・学校行事・児童会活動…縦割り班活動での学校農園活動(除草、苗植え、収穫及び収穫祭)
地域の高齢者や福祉施設とのふれあいボランティア活動
- ・総合的な学習の時間…身近な地域を知り、日本、世界へ関心を高める学習
自分のよさを知り、生き方を考える学習

イ 生命尊重の心を育てる動植物の飼育栽培活動の実践

- ・学校農園「平北ファーム」や教材園における作物栽培(全学年)
- ・小動物の飼育、室内水槽や観察池での魚の飼育・観察(全学年)
- ・地域にある「めだかの学校」での体験活動(1・2年)

ウ 特色ある学校づくりについての地域への啓発及び協力依頼

- ・学校日より、学年日より、学校公開日(4日間)の設定、学級懇談会、PTA行事

エ 潤いのある美しい環境の充実

- ◇・地域ボランティアと共に活動する「花いっぱい運動」の実践(美化委員会活動・生活科)
- ・校内環境整備の工夫と充実

オ 学校版ISO事業の推進

- ・環境保全運動
- ・省エネ、省資源リサイクル活動

カ 地域との交流の促進

- ・教育活動の成果を発表する運動会・PTA文化祭・地域行事への参加
(ひらきたソーラン・合奏・合唱・劇・学校農園などで栽培した作物の展示 等)
- ◇・地域の施設(高砂荘)訪問での発表・体験活動
- ◇・地域の方の協力を得た体験活動(教材園活動・鬼怒川を活用した環境学習・古代米等)

キ 地域の大人から生き方を学ぶ学習(キャリア教育との関連)

- ◇・地域の人々から職業や生き方と学ぶ

ク 学習成果の発表の機会の充実

- ・校内掲示などによる学習成果のまとめと発表
- ◇・展示パネルや掲示板などを有効に活用し児童の学習成果の掲示

平成22年度 児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査から

- ・ いじめの発生はない。しかし、悪口や無視などについてはときどきみられる。

(2) 学習と生活についてのアンケートから

- ・ 言葉遣いに気をつけている児童の割合は、低学年で90%、中学年で85%、高学年で80%程度で、昨年度よりも割合が5%程度増えている。
- ・ 学校で、先生や友だちにあいさつをしている児童の割合は、低・中学年で95%と高いが、高学年は85%程度と低い。しかし、昨年度より増えている。
- ・ 自分やみんなのためになることは、辛いことでも我慢してやろうとしている児童の割合は80%程度で、割合は昨年とほぼ同じである。

(3) 学校生活の状況から

- ・ 指示されたことは素直に行動するが、自ら考え判断し行動することにはやや消極的である。
- ・ 基本的な生活習慣がまだ十分身につけていない。
- ・ あいさつはしているが、自分から元気よくあいさつする児童は少ない。

(4) 学校評価から

- ・ 「児童は、あいさつをしている」の肯定的回答は昨年度とほぼ同程度で、「児童は、きちんとした言葉づかいや返事をしている」は昨年度より増えている。しかし、数値目標は達成していない。

2 今年度の重点目標

「思いやりの心をもち、主体的に正しく行動できる児童の育成」

3 今年度の取組（『スタンダード』関連には、文頭に☆）

【プロジェクト】「さわやか生活プロジェクト」（主な取り組みには、文頭に●）

めあて ◎元気のよいあいさつをする ◎だれとでも仲良くする（いじめのない温かな人間関係をつくる）

(1) 基本生活習慣の育成

- ☆ あいさつと会釈、廊下の歩行の徹底、場に応じた言葉遣いの継続的な指導（通年）
- ☆●児童会主催による「さわやかあいさつ運動」等の実施（月・水・金）
- ☆ 「ひらきたよい子の一日」による日常的な指導の徹底（通年）
- ☆●「ひらきたよい子の一日チェックリスト」による振りかえり（7月・10月・12月・2月）
- ・ 児童指導年間計画を基に、週の指導目標の設定及び指導の徹底（通年）

(2) 規範意識の醸成

- ☆ 道徳の時間と学級活動でいじめを題材とした授業を実施（5月、10月）
- ☆ 携帯電話の必要性の有無、弊害や危険性、正しい使い方やマナーの指導などの情報モラル教育の実施（年2回以上）
- ☆ 生命を尊重する心を高め、動植物を愛し、弱いものを思いやる心を育てる。
（飼育・栽培活動等）（通年）

(3) 望ましい集団作り

- ☆ 農園作業・清掃・児童会活動などにおいては、保護者や地域のボランティアの協力も得て、集団の一員としての自覚を深めさせるために以下の点に留意しつつ、自主的・実践的な態度を育てる。

(通年)

- a グループの構成員が固定化しないように配慮する。
- b 小規模校のよさを生かしていろいろな役割を経験できるようにする。

- ☆ Q—Uを生かした学級経営の充実

- ☆●いじめなど学校生活に関するアンケートによる早期対応（年4回 5月、9月、11月、2月）

- ・ 子どもたちとのふれあいの時間の確保（通年）
- ・ なかよしタイム、ふれあいタイムでの共遊（通年）

(4) 個に応じた指導の充実

- ☆●児童一人一人のよさについて理解し、互いに認めあい、励ましあえるような指導を徹底する。

(通年)

- ☆ 児童一人一人の考えを尊重し、自分の役割を意欲的に実行できるよう援助する。(通年)

- ☆ 帰りの会での「ともだちのよいところをみつけたよ」発表を行う。(通年)

- ☆ 児童指導全体会（月1回、職員会議前に行う。また、必要に応じて時間を確保する。）

- ☆ 定期教育相談の実施（年2回 7月・11月）

- ・ 児童理解の理論と方法の共通理解
- ・ 学級内における発達障害や不登校など特別な配慮を要する児童の継続的指導と記録の累積・活用及びかがやきルームの有効活用（通年）
- ・ 全職員による校内事例研究会と専門機関との連携
- ・ 研究課題に基づく研修

(5) 地域・家庭との連携

- ☆ 学年だより（毎月）・学校だより（毎月）・授業参観（4月・9月・12月・2月）・学校公開（6月・9月・12月）・家庭訪問（4月）・個人懇談（7月）を活用して情報交換を密にする。

- ☆●地域協議会と連携を図った「さわやかあいさつ運動の日」の設定（毎月第1・3金曜日）

平成22年度 健康・体力に関する取組

1 健康・体力に関する主な実態

(1) 定期健康診断・新体力テストから

- ・ 体格については、各学年間の差が大きく市平均値との差異を見出だせないものの、各学年の体格差が体力差に相関が見られる。
- ・ 新体力テストの結果、県の平均と比較すると、シャトルランや反復横とびは優れているが、握力や立ち幅跳び、50m走は劣っている。また、特定の種目に偏るなど個人間の格差が大きい。
- ・ うつのみや元気っ子運動プログラム、ミニマムの達成状況をみると、水泳・鉄棒に関しては、到達率が高いが、かべ倒立については低い。
- ・ 各学年とも歯や視力低下の処置率が低い。

(2) 学習と生活についてのアンケートから

- ・ 生活習慣に関するアンケート調査では、ほとんどの児童が朝食をとっている。就寝時刻については極端に遅い児童がいる。

(3) 授業や体育的行事等への取組状況から

- ・ 体育の授業や体育的行事に積極的に取り組む児童が多い。

(4) 学校評価から

- ・ 朝食はほぼ児童全員が食べているが、児童の回答から、約2割の児童は好き嫌いがある。

2 今年度の重点目標

- ・ 自己の健康・体力についての理解を深め、進んでその向上に努める児童の育成
——保健指導や学級活動との関連をふまえた教科体育の工夫——

3 今年度の取組（『スタンダード』関連には、文頭に☆）

【プロジェクト】「すくすく身体プロジェクト」（主な取組には、文頭に●）

めあて ◎健康な心と体をつくる ◎好き嫌いなく食事をする

(1) 望ましい食習慣の育成

☆ 食育だよりの発行（通年）

☆ 栄養士と連携した食育に関する指導の充実

- ・ ●給食の献立紹介などを通じた栄養指導の充実（通年）
- ・ お弁当の日に向け、保護者と連携した事前・事後指導の実施。（11月）

(2) 健康・体力の向上

☆ 特定の種目に偏らない総合的な体力を高めるための補強運動の工夫（通年）

☆ ●体育的行事や各種検定に向けた組織的な活動（持久走大会の練習・なわとび集会など）の工夫

☆ 保健だよりの発行（通年）

☆ 養護教諭と連携し、就寝時刻の遅い児童への個別指導の実施（通年）

☆ 地域安全マップの作成と活用（通年）

- ・ 運動集会における運動遊びやゲームなどの活動の工夫（5月）
- ・ 体育領域の「体づくり運動」と保健領域の「健康な生活」「病気の予防」の学習時期の工夫

（12月、1月）

- ・ ●定期健康診断後の事後措置を徹底するため、保護者と連携した指導の実施

(3) 家庭・地域との連携協力

☆ ●各運動領域において、一人一人の伸長を図るための記録（「平石北のたくましい子」）の累積

- ・ 家庭や地域へ、健康・体力に関する情報発信（通年）
- ・ ●就寝時刻の指導など家庭と連携した健康的な生活習慣の確立（通年）

☆ 防犯教室、防犯避難訓練（1月）の実施

平成22年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 学習内容定着度調査、全国学力・学習状況調査から

ア 国語

・「作文」・「書くこと」の領域では、3年生の条件に合わせて招待する手紙を書くことについて、正答率が低くなっている。説明的文章や文学的文章の読み取りについては、学年が上がるに従って正答率が高くなる傾向にある。

イ 算数

・「数量関係」の領域では、分配法則についての正答率が他の設問に比べて低くなっている。また、グラフに関する問題では、読み取ったり理解したりすることについて正答率が低くなっている。「図形」の領域では、構成要素や性質についての正答率が低くなっている。

(2) 学習と生活についてのアンケートから

・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」について、肯定的に回答する児童の割合が他の質問に比べて低くなっている。

・家庭学習については、学年により差はあるが、その日のめあてを決めて取り組むなど習慣になっている児童が多い傾向にある。

(3) 授業等への取組状況から

・体験的な学習には意欲的であり、課題に対して素直に取り組むよさを持っている。しかし、積極的に発言したり、互いに意見を交換して比較したりして学び合う力が十分でない。

(4) 学校評価から

・授業中の様子から、進んで挙手し、積極的に学習するなどの取組に課題が見られる。

2 本年度の重点目標

「分かる授業」による、意欲をもって進んで学習する児童の育成

3 本年度の取組（『スタンダード』関連には、文頭に☆）

【プロジェクト】「いきいき勉強プロジェクト」（主な取組には、文頭に●）

めあて ◎意欲をもって進んで学習する ◎本をたくさん読む

(1) 基礎・基本の確実な定着

☆学習の心得や話の聞き方など、学習態度の育成（通年）

☆ひらがな・かたかな・漢字テストや計算テストの実施（通年）

☆個に応じた指導の工夫（通年）

(2) 学習指導上の工夫・改善

●一人1授業公開による「分かる授業」の推進

☆適切な宿題の量と家庭学習の習慣化（通年）

☆学習内容定着度調査、学習・生活アンケートの結果の公表（4月）

☆自他のよさを認めたり比較したりしながら、考えを深めたり広げたりする学び合いの手立ての工夫や、相互評価の場の設定（通年）

☆●学習意欲の向上のための効果的な発表の場の設定の工夫（通年）

(3) 読書活動の充実

☆●全校朝の読書の実施（火・木曜日朝15分）・読み聞かせボランティアの実施（月1回）

・校内読書週間の実施（6月・10月）

・親子読書（夏休み・秋休み・冬休み）

(4) 家庭・地域との連携・協力

☆●ゲストティーチャーや授業支援ボランティアの協力を得た指導の充実（通年）

・保護者会において、学習内容定着度調査、学習・生活アンケートの結果を生かした学習指導の説明（4月）

・保護者との個人懇談において、学習などの様子・夏季休業中の課題や生活についての説明や情報交換（7月）

☆保護者会において、規則正しい家庭での生活や学習についての情報交換の場を設定（4月・12月・2月）

●家庭での「自主学習の日」の設定（学年に応じて週1回以上）